

# 赤穂市の「いま」と「みらい」について考える ワークショップ（報告）

## 1. ワークショップの目的

赤穂市が目指すまちづくりの方向性を示す最上位計画として、2021年度から10年間を計画期間とする新たな「2030赤穂市総合計画」の検討・策定を進めるにあたって、高校生の意見・アイデア等を計画策定の参考資料とさせていただくためにワークショップを開催しました。

## 2. 実施概要

【参加メンバー】兵庫県立赤穂高等学校の生徒25名

【ショップ編成】1ショップ4～6人程度で編成

【開催日】令和元年7月24日（水）

## 3. 実施内容

進行次第	概要
ワークショップ	◆事務局より、本日のワークショップの進め方等について説明
(1) リーダー選出	◆各グループで、自己紹介の後、リーダーを決める ◆リーダーは進行役等を担う
(2) 現在の赤穂市について	◇赤穂市の特徴・魅力・弱みは？（周辺の団体（相生市、姫路市、備前市、上郡町など）との違い） ◇赤穂市の特徴・魅力・弱みは？（都市部（神戸市、大阪市、東京圏）などとの違い） ◆各自がカード（ポストイット）に書き出し ◆リーダーを中心に、カードを整理しながら模造紙に貼る
(3) 未来の赤穂市について	◇赤穂市にもっと多くの人が訪れ、暮らしていくために必要なことは？ ◆各自がカード（ポストイット）に書き出し ◆リーダーを中心に、カードを整理しながら模造紙に貼る ◇これからの赤穂市をアピールするメッセージ（キャッチフレーズ）を考える ◆みんなで話し合っって決めたメッセージを模造紙に書く
発表	◆各ワークショップの成果について、メンバー自らが発表 ◆発表の際には、当該ワークショップの模造紙を掲示

## 赤穂市の現在と未来について考えるワークショップまとめ

### 1. ワークショップの目的

赤穂市が目指すまちづくりの方向性を示す最上位計画として、2021年度から10年間を計画期間とする新たな「2030 赤穂市総合計画」の検討・策定を進めるにあたって、高校生の意見・アイデア等を計画策定の参考資料とさせていただくためにワークショップを開催しました。

これからの赤穂市を担っていく高校生の考えや意見・要望等について発言していただき、赤穂市の現在と未来について考えていただくとともに、この機会が若い市民としての郷土愛や誇りの醸成につながることを目的としています。

### 2. ワークショップの概要

実施日時：令和元年7月24日（水）13：30～15：30

実施方法：兵庫県立赤穂高等学校の生徒25名に集まっていただき、各4～6人でグループ分けし、赤穂市の現在や未来について意見を出し合い、KJ法\*によりまとめていただきました。

グループ1	3年生チーム6人	グループ4	2年生チーム5人
グループ2	2年生チーム4人	グループ5	2年生チーム5人
グループ3	2年生チーム5人		

※KJ法：カードに書き出した意見や情報などに対し、グループ分けとタイトルづけを行い、関連性を見いだすことで、意見や情報をまとめる手法。

### 3. ワークショップの手法

〈テーマ1：現在の赤穂市について〉

赤穂市の魅力（強み）や問題点（弱み）について、各自で書き出し、さらにグループで話し合いながら追加・共有し、まとめました。

〈テーマ2：未来の赤穂市について〉

赤穂市が、「暮らしやすいまち」になるために必要なものについて、各自で書き出し、さらにグループで話し合いながら追加・共有し、まとめました。

〈テーマ3：これからの赤穂市を表現するキーワードについて〉

赤穂市を知ってもらい、赤穂市に興味・関心を持ってもらうための、未来の赤穂市を表現するキーワードを、グループで話し合いながら考え、まとめました。

### 4. ワークショップのまとめ

- 赤穂市の魅力と問題点について考えてもらうと、多くの生徒が問題点よりも魅力を多く記載していました。自然の豊かさ、塩や忠臣蔵といった有名なものがたくさんあることをはじめとして、赤穂市は魅力の多いまちと高校生は思っているようです。特に映画館が近いことは高校生にとって魅力度の強いものであることがうかがえます。
- 電車の本数が少ない、バスが利用しにくいといった交通の不便さはすべてのグループで意見として挙がっており、重要な課題といえます。
- 今後のまちづくりに必要なものとして、遊び場やお店といった娯楽施設も多く挙げられていましたが、そういった施設だけでなく、市外への発信についても必要であると多くのグループで意見が出ています。せっかくの赤穂市の魅力が知られていないので、もっと多くの人に赤穂市の良さを知ってもらうことが大切であると高校生は考えています。

